

本市の廃校活用について

大内 卓也



【答弁】【学校管理課長】件

【質問】例として、旧白川中学校の今後の活用方法について、所見を伺う。

【答弁】【市長】文部科学省の『〜未来につながる〜「みんなの廃校」プロジェクト』に掲載し、提案を募っている。これまで複数件の問い合わせを受けており、説明や現地案内を行った実績はあるが、具体的な提案には至っていない。当面は適切な維持管理を行い、借用希望団体に貸し付けを行なっていく考えである。

【質問】廃校プロジェクトへの複数件の問い合わせについて、具体的にどのような問い合わせがあったのか伺う。

数としては、令和元年度が4件、令和2年度が2件、令和3年度が3件、令和4年度が3件、本年度が現在まで7件である。内容は、外国人就労者宿泊施設、太陽光発電、老人福祉施設、タイヤ保管庫などさまざまだが、具体的な話にはなっていない。

【質問】廃校の活用について、本市と仙台大学との包括連携協定が生かせると思われるが、所見を伺う。

【答弁】【市長】具体的な取り組み内容や実施事項を双方合意の上決定することになることから、仙台大学から申し入れがあった際は、丁寧な協議をしたいと考えている。

【質問】さまざまな団体等へ廃校活用のアプローチを実施していく場合、施設のメンテナンスや老朽化の進んだ校舎をどうしようしていくのか考える必要がある。その中で、国庫補助制度も視野に入れられるのではと考えるが、所見を伺う。

【答弁】【市長】旧白川中学校は、本市の実情や地域のニーズ等も踏まえ、有効活用について検討している。

国庫補助制度は、地方公共団体が実施する特定の事業、事務等に要する経費の一部が交付されるもので、具体的な事業が決まって初めて補助金のメニューから該当するものを申請することになる。

現時点での旧白川中学校の活用、利用状況だけでは、メンテナンス等に利用できる補助金はないと思われる。

市道の維持管理（除草）について

佐藤 龍彦



【質問】現在、本市では、市道の除草等の維持管理について、どのように対応しているのか伺う。

【答弁】【建設課長】市道の維持管理については、日常のパトロールのほか、自治会長および地域住民、道路利用者等からの通報等により現地調査を行い対応している。通報の内容は、交通安全施設や舗装などの修繕、倒木、除草、側溝の閉塞など多岐にわたり、数多くの情報が寄せられている。それらの対応は、利用者の安全を最優先に、舗装の穴埋めや倒木処理など、比較的軽微な作業は職員が行なっているが、重機を使用する場合などは業者に対応を依頼している。

また、除草等の維持管理については、幹線市道など交通量が多く、カーブや急勾配で見通しが悪い区間は、毎年シルバー人材センターなどに業務委託を行っており、各地域においては、地域の皆さまの自主的な活動により、道路除草等の環境整備に取り組んでいただいている。

引き続き自治会や関係機関と連携し、地域の協力をいただきながら市道の維持管理に努めていきたい。

【質問】自治会等で市道の除草等を実施した際に、燃料費等を支給するなどの支援する考えはないのか伺う。

【答弁】【建設課長】道路の除草については「自助、互助、共助の理念」のもと、地域の皆さまのご協力により市内全域で行われている。燃料費の支給などの支援策についてはさまざま検討したが、本市ではほぼ全ての自治会において、何らかの除草や支障木伐採等へのご協力をいただいております。

おり、作業実績の確認など、現状ではさまざまな課題があることから、直ちに実施することは難しいものと考えている。引き続き他の自治体の事例を研究していきたい。

【その他の質問】
○子ども医療費助成の拡充について
○本市の投票環境について
○本市の教育及び教員の労働環境について